

# 竹林から未来へ:Kaguyaプロジェクト

地域と若者が紡ぐ竹林再生の物語



森下 颯樹 (もりした さつき)  
兵庫県立洲本実業高等学校 2年

# 竹林から未来へ:Kaguyaプロジェクト

地域と若者が紡ぐ竹林再生の物語

森下 颯樹



## 活動概要

### 活動の内容

私は、地元の淡路島で放置された竹林問題を解決するために「Kaguyaプロジェクト」を立ち上げました。4月から11月にかけて、洲本市内で数回竹林整備を行い、地域のイベントや本校の文化祭で、竹筒を容器に使った茶碗蒸し、「バンブーたまごむしむし」の開発・販売をしました。また、竹灯籠づくりのワークショップを開催し、地域の方々や同世代の高校生と一緒に竹林問題の周知と解決策を探りました。活動を通じて、多くの人々とつながることができることに、私自身も成長できました。

### 活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は、若者の力で竹林整備を積極的に行えたことです。高齢化が進む地域では、放置竹林が問題でしたが、私たちが参加することで、その整備がスムーズに進みました。また竹の有効活用を通じて問題解決を目指しました。自分たちで商品開発やイベント企画を行い、若者から高齢者まで幅広い層に竹林問題を知ってもらう努力をしました。同世代の仲間を巻き込み、地域全体で取り組む姿勢がこの活動の大きな特徴です。

### 活動の成果

活動を通じて、地域や高校生の竹林問題への関心をより高めることができました。イベントでの商品の販売やワークショップにより、多くの人が竹の活用法や竹林の現状を知る機会を提供することができました。また、他校の高校生たちも巻き込み、若者の力で地域課題に取り組む輪が広がりました。高齢化で手が回らない竹林整備に貢献し、地域の方々から感謝の言葉をいただいたことも大きな成果です。

## 課題の設定と意図

私が取り上げた課題は、地元・淡路島における「竹林問題」、特に放置竹林による「竹害」です。竹が放置されて、過剰に繁殖することで、生態系のバランスが崩れ、農地や生活環境に悪影響を及ぼします。さらに、竹林が密集することで、土砂崩れや滑りなどの災害を引き起こしやすくなり、獣害(野生動物による被害)を増加させる要因にもなります。これらの現状を、昨年3月に参加した竹林ワークショップで知りました。そのとき、自分たちの住む地域がこんなにも深刻な問題を抱えていることに衝撃を受けました。さらに、高齢化が進む中、地域の方々だけでは竹林整備が困難であることも分かり、自分たち若者が何か力になれないかと思いました。また、竹林問題は普段の生活ではあまり意識されておらず、多くの人が無関心であることにも気づきました。私は生まれ育った淡路島が大好きで、「自分にできることから始めよう」という熱い思いから、この課題を選びました。私たちが行動することで、少しでも地域の未来を明るく、持続可能な環境を守りたいと願っています。

## 課題解決のための仮説と計画

私はまず、「竹林問題は認知度が低いため、周知活動と竹の有効活用を提案すれば、多くの人に関心を持ち、解決に向けた行動が増える」という仮説を立てました。この仮説を検証するため、竹を使ったオリジナル商品「バンブーたまごむしむし」を開発し、地域イベントで販売する計画を立てました。初めての商品開発にワクワクしながら、地域の皆さんに喜んでもらえるよう心を込めて準備しました。また、竹灯籠づくりのワークショップを企画し、地域の方々と直接交流しながら問題を伝える機会を作りました。

活動を進める中で、高齢化が進む地域では、地域住民だけの力では竹林整備をすることが困難であることが分かり、若者の力が必要であることを再認識しました。そこで、より多くの若者を巻き込むために、アンケート調査を実施しました。その結果、高校生の約97%が竹林問題を「全く知らない」または「聞いたことはあるが詳しくは知らない」と回答し、興味も「全くない」または「少しある」にとどまっていることが分かりました。このネガティブな回答に最初はショックを受けましたが、一度知りさえすれば彼らの考えは変わるのではないかと考え、「若者への直接的な体験提供が認知度と関心を高める効果があるのではないか」という新たな仮説を立てました。

そこで計画を見直し、近隣の高校生を招いた竹林イベントを開催することにしました。このイベントでは竹林整備や竹料理のワークショップを行い、参加者全員が竹林問題への興味を深めました。彼らが楽しそうに活動し、「今日は来て良かった!」と言ってくれたときは、本当に嬉しかったです。さらに、参加者の80%が「学んだことを他人に共有したい」と回答し、情報の広がりにも期待が持てました。これにより、若者の力で地域課題に取り組む輪を広げることができ、当初の仮説をより具体的に実践する方向へと計画を進化させました。



バンブーたまごむしむしの販売



整備された竹林

## 活動で工夫できたこと

工夫した点は、竹の特性を活かした商品開発とワークショップの企画です。家庭科で学んだ調理技術を活かし、「バンブーたまごむしむし」を考案しました。竹筒を器にすることで、環境に優しく、竹の香りも味わえる、見た目もインパクトのある商品に仕上げました。何度も試作を重ね、味や見た目にとことんこだわりました。調理には蒸し器を使用しましたが、同じ形状の茶碗ではなく、一つひとつ形の違う竹を用いるため、蒸し時間の調整に本当に苦労しました。これまで茶碗蒸しをイベントで提供するために、竹を500節以上切断し、それを学校に持ち帰り一つひとつ煮沸消毒してきました。本当に大変な作業でしたが、その分、多くの方に「おいしい！」と言ってくれたときは本当に嬉しかったです。

また、ワークショップの企画にも力を入れました。参加者が楽しんでくれるように、まず自分自身がワクワクするような企画を心掛けました。竹灯籠づくりワークショップや、竹を用いた七夕ボードに願い事を貼ってもらいライトアップする企画などを考えました。イベントでは、参加者を含め地域の方々たくさんコミュニケーションをとるよう努めました。私は人と話すことが好きですが、上手に話すのは苦手でした。子どもにはどうすれば心を開いてくれるのか等、一生懸命考えました。その結果、子どもからお年寄りまで笑顔が溢れ、竹に触れる楽しさを共有できたと思います。



皆の願いを書いた七夕ボードをライトアップ

他校の高校生を招いた竹林整備では、少しでも楽しんでもらうために、竹林整備をするだけでなく、持ち寄りの具材で豚汁や竹筒を用いた炊き込みご飯を作るお楽しみ企画を用意しました。みんなで協力して料理をすることで、交流も深まりました。

チーム内ではリーダーシップを発揮し、役割分担やスケジュール、計画をしっかりと組むことで、活動を円滑に進めることができました。これらは私の知識や能力を最大限に活かした結果だと思います。

## 活動で得た学び・気づき

今回の活動を通して、私は主に三つの力を身につけ、成長しました。

### ①コミュニケーション力

もともと人と話すことは好きでしたが、特に大人の方々と上手に話す自信がありませんでした。しかし、多くの方々と接する中で、「下手でもいいから自信を持って想いを伝えることが大切だ」とアドバイスをいただきました。その言葉に背中を押され、思い切って自分の考えや熱意を伝えるよう心がけました。最初は緊張しましたが、様々な経験を積むうちに苦手意識も少し薄れ、人とつながる喜びを深く感じるようになりました。また、人と人をつなげる役割を担うことで、コミュニケーションが地域の未来をつくるのだと実感しました。特に、竹林整備の際に地元の方々から直接お話を聞き、地域への愛情を知ることで、自分自身も地域の一員であることを強く感じました。

### ②企画力

当初、企画書作りは得意ではなく、「何を目的に、どんな内容を、どんな手段で行うのか」といった基本的な部分でも苦労しました。しかし、様々な人々の助けを借りながら、少しずつ企画力を磨くことができました。どのような言葉を使えば分かりやすく伝えられるか、一つのイベントを行うのに必要なものをイメージしながら持ち物リストを作成することが楽しくなりました。自分たちのアイデアが形になり、多くの人々に楽しんでもらえる喜びを味わい、企画することの楽しさと達成感を知りました。また、予算や安全対策など、これまで意識していなかったことにも気を配ることで、学びになりました。

### ③行動力

今回の活動を通じて、行動することの大切さを強く実感しました。最初は「私に何ができるのか」と不安でしたが、一歩踏み出すことで多くの人々とつながり、地域の課題解決に貢献できました。特に、竹林整備で地域の高齢者の方々から「若い人が来てくれて本当に助かる」という言葉をいただいたとき、自分たちの行動が直接誰かの役に立っていると感じ、胸が熱くなりました。行動することで、たとえ小さくても地域を変えられるのだと実感しました。

また、計画通りにいかないことも多く、その都度チームで話し合い、柔軟に対応する力も身につきました。協力することの大切さやチームワークの力を実感し、自分自身の成長を感じるとともに、社会に対する視野も広がりました。地域の課題は自分たちの問題でもあり、無関心でいてはいけなくと強く思いました。

さらに、この経験を通して、持続可能な社会の実現には自分たち一人ひとりの行動が重要であることを学びました。環境問題や地域活性化は遠い話ではなく、自分たちの日常生活と深く関わっているのだと気づきました。これからも自分にできることを探し、積極的に行動していきたいと考えています。そして、この想いを多くの人々と共有し、共により良い未来を築いていきたいです。

## 今後の展望・新たな取組み

今回の活動を通じて、私は自分自身が行動することで社会を変える一歩を踏み出せることを実感しました。高校卒業後は就職し、地元である淡路島で働きながら、地域に貢献できる人材になりたいと強く思っています。生まれ育ったこの土地に恩返しをし、地域の未来を共に創り上げていきたいです。

Kaguyaプロジェクトのさらなる発展として、今後は「竹のアート展」を開催したいと考えています。竹のオブジェや灯籠だけでなく、音楽、美術、書道などさまざまな芸術分野を融合させた幻想的な空間を作り出し、多くの人々に竹の新たな魅力を感じてもらいたいです。このアート展を通じて、竹林問題への関心を高めるだけでなく、地域文化の発信やにもつなげたいと思っています。さまざまな世代や背景を持つ人々が集まり、交流できる場を提供することで、地域の絆を深めたいです。

また、構想段階ではありますが、「バンブーペープメント」の実現にも挑戦したいです。竹チップを利用した舗装で、公園や地域の公共スペースに新たな価値を提供できると考えています。これにより、竹の有効活用の幅を広げ、持続可能な資源循環のモデルを作り出し、環境保全にも貢献したいです。行政や企業とも連携しながら、具体的な計画を進めていきたいと思っています。

これらの取り組みを通じて、私は地域の活性化だけでなく、自分自身の成長も目指しています。これまでに培ったコミュニケーション力や企画力、行動力をさらに磨き、多くの人々と協力し合いながら課題解決に取り組みたいです。自分一人の力は小さいかもしれませんが、熱意と誠実さを持って行動し続けることで、必ずや地域に良い変化をもたらせると信じています。

そして、この想いを同世代の仲間たちとも共有し、一緒により良い未来を築いていきたいです。地域に根ざし、人々の笑顔が溢れる社会を目指して、これからも努力を続けていきます。自分の行動が誰かの笑顔につながり、その笑顔がまた新たな行動を生む——そんな連鎖を生み出せるよう、これからも前向きに取り組んでいきたいと思っています。

さらに、今後は地域のボランティア活動やコミュニティイベントにも積極的に参加し、より多くの人々とつながりを持ちたいです。地元の子どもたちに自分の経験を伝え、一緒に活動することで、次の世代にも地域への愛着と誇りを持ってもらえるよう努めます。また、地域の方々の意見やニーズをしっかりと聞き取り、それを活動に反映させることで、より実効性のある取り組みを実現したいと考えています。

今回の地域探求プログラムやKaguyaプロジェクトは、私にとって本当に大切な財産となりました。これからも初心を忘れず、地域に貢献できる人材として成長していきます。そして、淡路島の美しい自然や文化を次の世代へとつなげていくために、自分にできることを精一杯やっていきたいです。

動画URL	二次元コード	添付PDF あり
<a href="https://youtu.be/Y2ljwa-5a78">https://youtu.be/Y2ljwa-5a78</a>		

## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	近畿
---------	---	---------	----	------	----

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立淡路青少年交流の家	修了日	2023/7/21	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2024/4/1 ~ 2025/1/31				
活動のタイプ	新たな活動				
共同実施者	有	所属学校におけるユネスコクラブ員、9名の協力を得て行った。			
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	兵庫県立洲本実業高等学校ユネスコクラブ顧問		営業許可をとっていただいた。	
	氏名	岩木 拓也			
	所属	あわじ里山プロジェクト		竹林整備の手助けをしていただいた。	
	氏名	辻 淳三			
	所属			竹林整備を依頼していただいた。	
氏名	小林 弘子				
協力者総数	10名		協力団体数	1団体	

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 65 日

事前:準備・打合せ	47日	本番:メインの活動	9日	事後:ふりかえり・報告	9日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	kaguyaプロジェクトの取り組みを取材していただいた。
SNS	自ら発信	3回以上	ユネスコクラブ公式インスタグラムで、イベント告知や取り組みを発信した。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
4/27 ~ 4/28	②実践活動本番	洲本市立洲本中央公民館付近	レトロなまち歩きイベントにおいてバンブーたまごむしむしの調理・販売を行った。
7/7 ~ 7/7	②実践活動本番	洲本市立洲本中央公民館付近	七夕ナイトにおいて、竹灯籠づくりワークショップ、七夕ボードライトアップを行った。
10/12 ~ 10/12	②実践活動本番	洲本市千草竹林	近隣の高校生を招いて、竹林整備イベントを行った。
11/10 ~ 11/10	②実践活動本番	洲本市立洲本中央公民館付近	レトロなまち歩きイベントにおいてバンブーたまごむしむしの調理・販売を行った。
11/15 ~ 11/15	②実践活動本番	所属校	文化祭においてバンブーたまごむしむしの調理・販売を行った。

## 竹林問題に関するアンケート

このアンケートは、竹林問題に対する認知度や意識、活動への関心についてうかがうためのものです。それぞれの質問で該当する内容に○をつけて下さい。ご協力をお願いいたします。

**質問 1** あなたの情報について教えてください。

1. 中学生以下    2. 高校生    3. 19～29歳    4. 30～49歳    5. 50歳以上

**質問 2** 竹林問題についてどの程度知っていますか？

「竹林問題」とは、竹が放置されることで他の植物が育たなくなったり、農地や生活環境に悪影響を及ぼす現象を指します。さらに、竹林が密集することで、土砂崩れや滑りなどの災害を引き起こしやすくなり、獣害（野生動物による被害）を増加させる要因にもなります。この問題について、どの程度ご存知ですか？

1. 全く知らない  
2. 聞いたことはあるが、詳しくは知らない  
3. 問題について理解しており、身近に感じる  
4. 非常に詳しく知っており、自分でも解決に関心がある



**質問 3** 竹林問題に興味はありますか？

1. 全くない                      2. 少しある                      3. 非常にある

**質問 4** 竹林整備の活動に参加し、竹林問題に苦しむ地域に貢献したいと思いませんか？

1. 全く思わない              2. 少し思う                      3. 強く思う

**質問 5** 竹害解決のために何が有効だと思いますか？（複数選択可）

1. 竹林伐採                      2. 竹の利活用                      3. 啓発活動  
4. その他（具体的に記入してください）： \_\_\_\_\_

**質問 6** 若者が竹林問題により関心を持つために、どのような取り組みが有効だと思いますか？（複数選択可）

1. 竹を使ったワークショップ    2. 啓発イベントの開催    3. SNS や動画での情報発信  
4. その他（具体的に記入してください）： \_\_\_\_\_

**質問 7** 実際に**質問 6**のような活動に参加したいと思いますか？

1. 全く思わない              2. 少し思う                      3. 強く思う

※竹林イベント参加者には以下の質問を追加しました。

**質問 8** 今回の活動を通じて竹林問題への関心が高まりましたか？

1. 全く高まらない
2. 少し高まった
3. 非常に高まった

**質問 9** 今回の活動で学んだことを他人に共有したいと思いますか？

1. 全く思わない
2. 少し思う
3. 強く思う

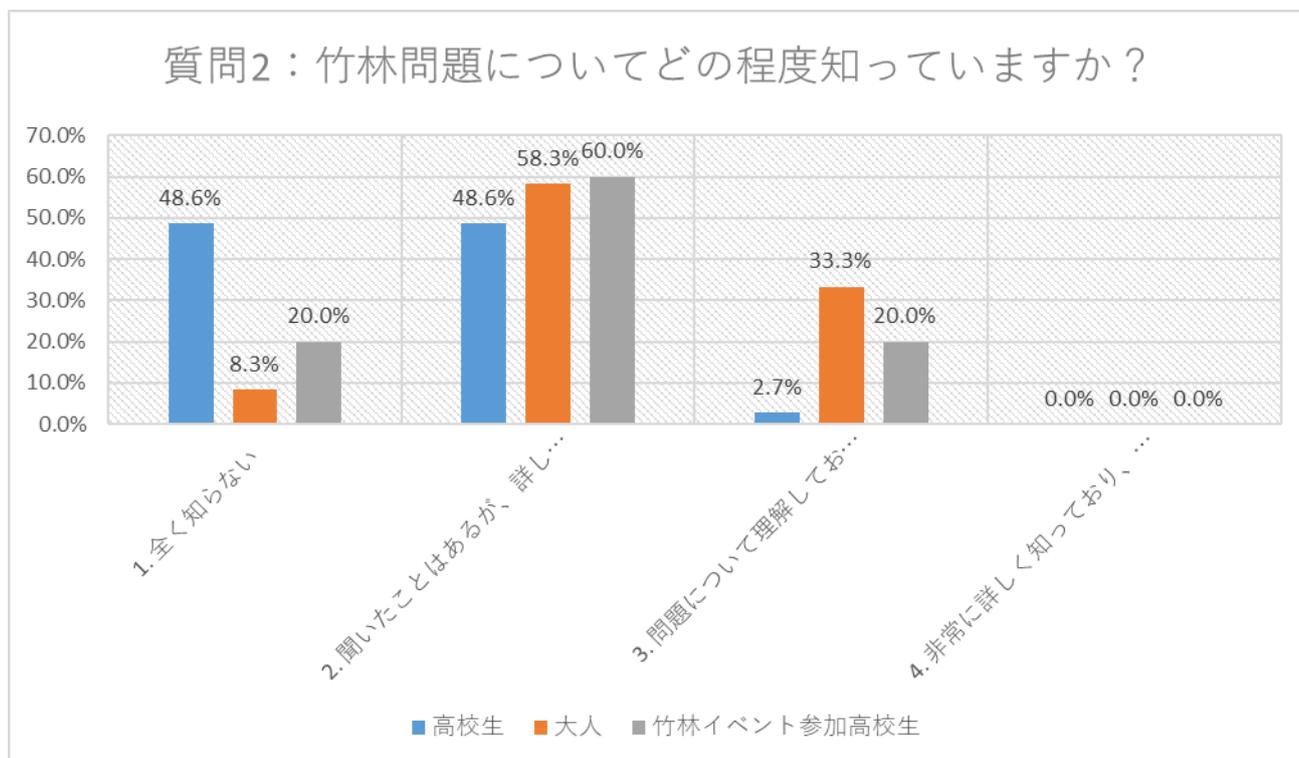
## アンケート実施時期と人数

高校生：5/9(木)~5/16(木)の期間で、本校2年生2クラス72名を対象に行った。

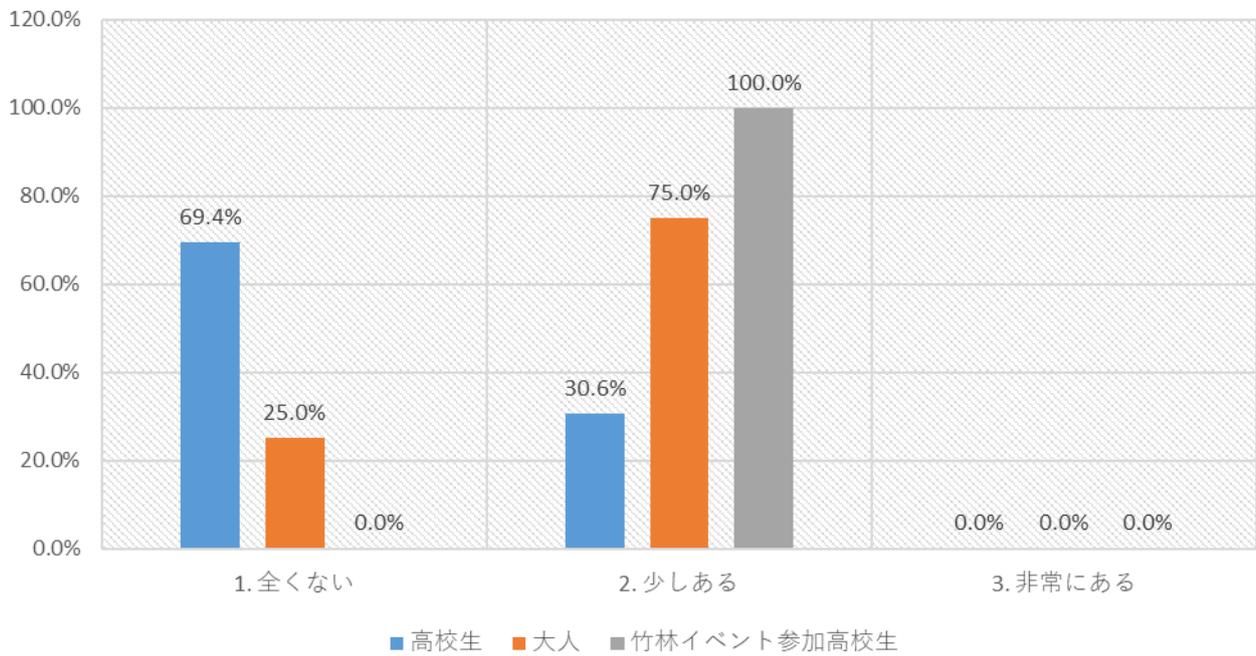
大人：11/15(金)、本校文化祭にて保護者24名を対象に行った。

竹林イベント参加高校生：10/12(土)、竹林イベントで他校参加者5名を対象に行った。

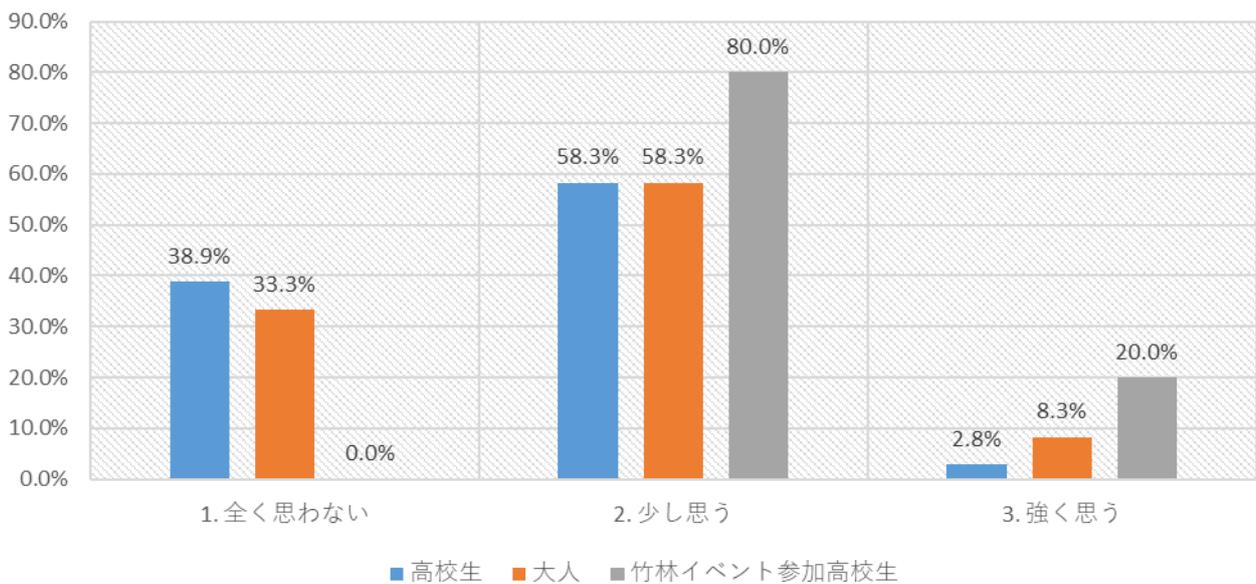
## 竹林アンケート結果



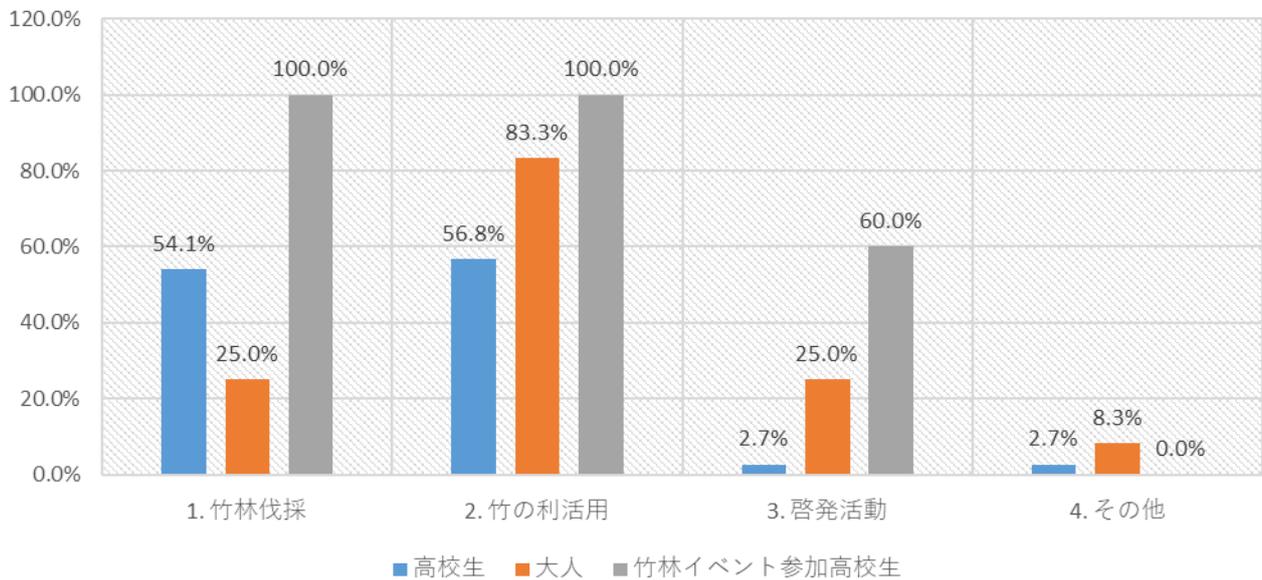
### 質問3：竹林問題に興味はありますか？



### 質問4：竹林整備の活動に参加し、地域に貢献したいと思いますか？

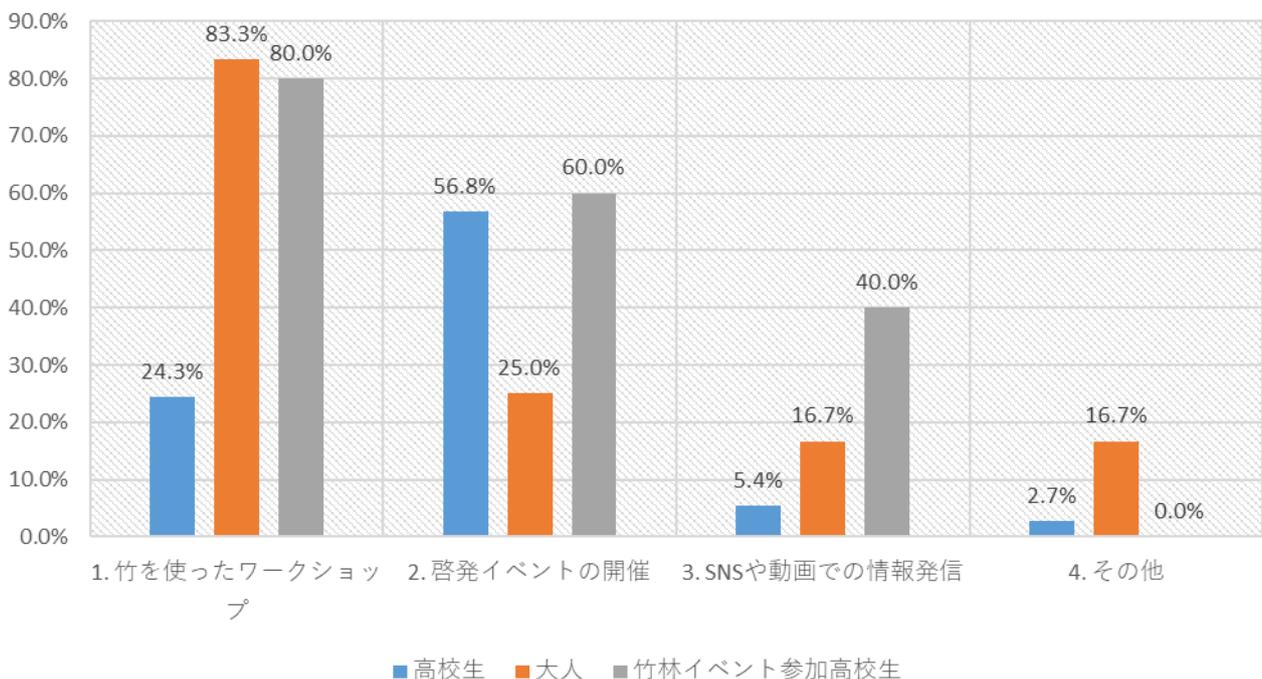


質問5：竹害解決のために何が有効だと思いますか？  
 （複数選択可）（全体に対する割合）



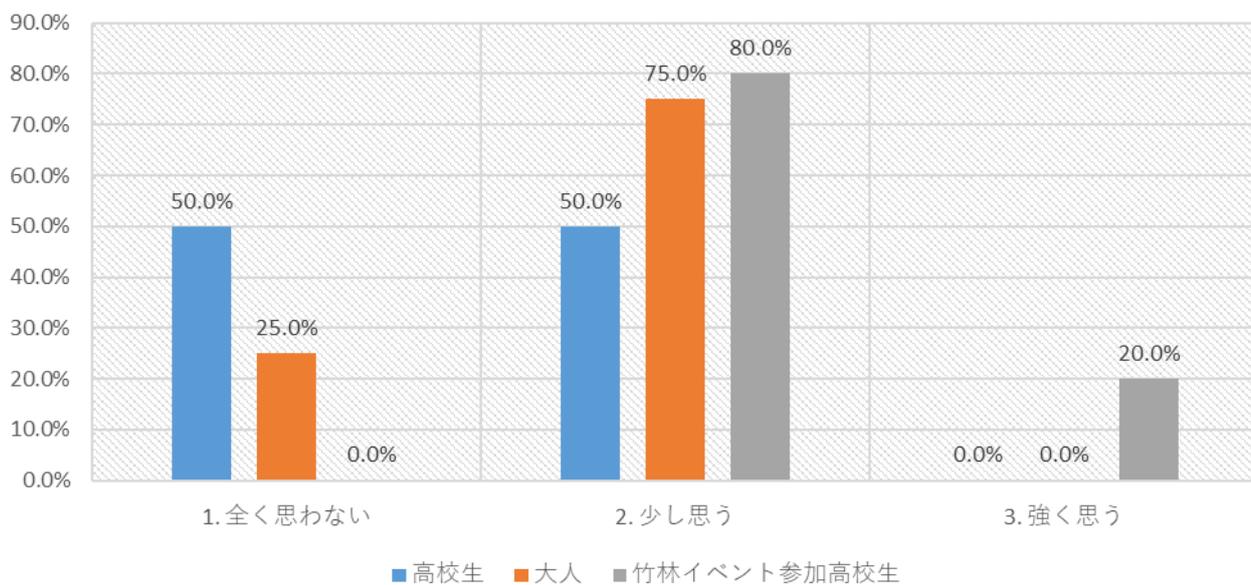
※「4.その他」についての具体的な回答：所有者の管理（高校生）、バイオマスの燃料（大人）

質問6：若者が竹林問題により関心を持つために有効な取り組みは？（複数選択可）（全体に対する割合）

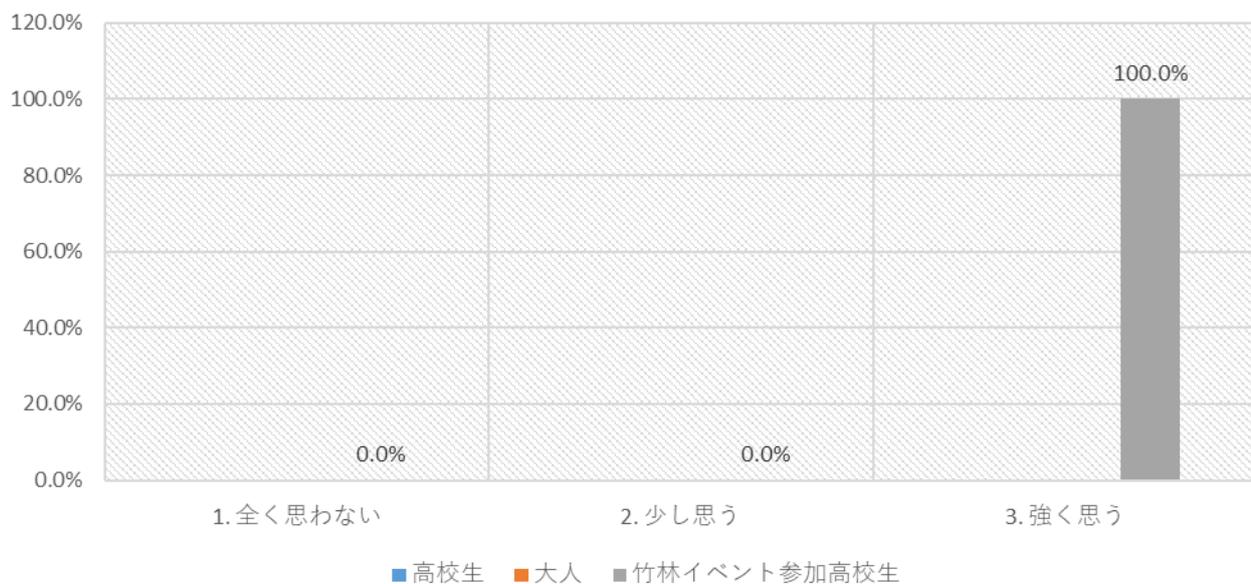


※「4.その他」についての具体的な回答：竹の家をつくる（高校生・大人）

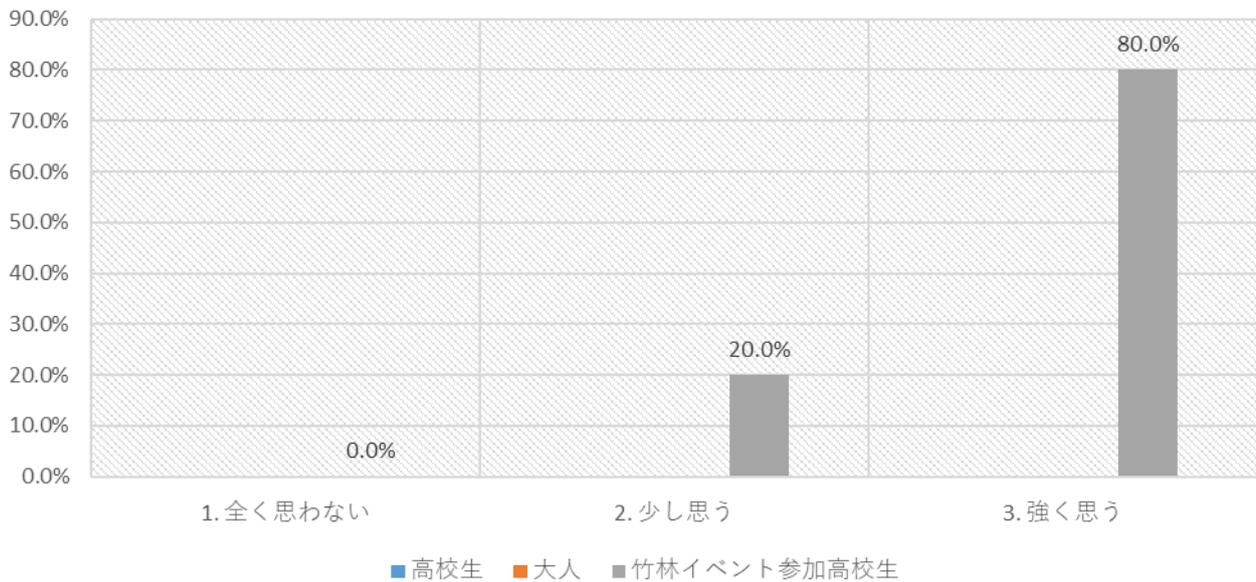
### 質問7：実際に質問6のような活動に参加したいと思いますか？



### 質問8：今回の活動を通じて竹林問題への関心が高まりましたか？（イベント参加者のみ）



質問9：今回の活動で学んだことを他人に共有したい  
と思いますか？（イベント参加者のみ）



## 竹林アンケート分析

### 1. 認知度について

- 高校生の中では、竹林問題を「全く知らない」と「聞いたことはある」人が半々でした。つまり、ほとんどの高校生は詳しく知らないということがわかります。
- 大人の方は「聞いたことはある」が58%で、高校生よりも認知度が高いことがわかります。

### 2. 興味について

- 高校生の興味は低く、「全くない」が69%を占めました。
- 大人は「少しある」が75%で、ある程度の関心を持っている人が多いことがわかります。
- イベント参加者の高校生は全員が「少しある」(100%)と回答しており、ある程度の興味をもって竹林イベントに参加してくれたことがわかります。

### 3. 活動参加意欲

- 高校生では「少し思う」が58%で最多ですが、「全く思わない」も39%おり、意識が分かれていることがわかります。
- 大人は「少し思う」が58%で、高校生よりも参加意欲が高い傾向があります。

#### 4. 有効な取り組み

- 高校生は「啓発イベント」(57%)を重要視しており、関心を高めるための機会が必要とされています。
- 大人は「竹の利活用」(59%)を高く評価し、実用的な解決策を求める傾向が見られます。
- イベント参加者は全体的にバランスよく回答しており、様々な取り組みに興味を持っていることがわかります。

#### 5. イベント効果

- イベントに参加した高校生は全員が「非常に高まった」(100%)と回答し、認知度と意欲の向上に大きく影響していることが明らかです。
- また、「学んだことを他人に共有したい」という回答も高く、情報共有の意欲が強く見られます。